

Red Hat OpenShift Service on AWS でアプリケーションを実行する 5 つの理由

Red Hat OpenShift Service on AWS によってアプリケーションをモダナイズし、新たなビジネスの可能性を解き放ちましょう。

アプリケーション変革は、アプリケーションの開発、デプロイ、管理方法を変更し、アジリティ、セキュリティ、安定性を向上させます。実際、企業は今後1年以内にアプリケーションの78%をモダナイズする計画を立てています。¹

Red Hat と Amazon Web Services (AWS) は、両社が共同で運用し、サポートするターンキー型のアプリケーション・プラットフォームを提供しています。これによって企業はモダナイズの取り組みにおける時間と労力を節約できます。Red Hat と AWS が共同で設計、運用、サポートする [Red Hat® OpenShift® Service on AWS](#) は、プロダクショングレードのコンポーネントとオープンスタンダードに基づく完全なソリューションを提供します。このクラウドサービスは、Red Hat OpenShift、AWS インフラストラクチャ、およびエキスパートによる SRE (サイト信頼性エンジニアリング) チームを組み合わせ、イノベーションのための信頼性の高い基盤を提供します。

ここでは、OpenShift Service on AWS でアプリケーションのモダナイズとデプロイを行うべき 5 つの主な理由について説明します。

1 デプロイの単純化

組織の73.5%が、クラウドサービスを通じてクラウド・プラットフォームの実装、保守、最適化をアウトソーシングしているか、今後1年以内にアウトソーシングすることを計画しています。² OpenShift Service on AWS は、短期間で使用を開始するために必要なものがすべて揃った、すぐに使用できるネイティブクラウドサービスを提供します。Red Hat の SRE チームが、ライフサイクル管理、スケーリング、セキュリティパッチ、インシデント対応など、Red Hat OpenShift クラスタのデプロイと管理を自動化するので、社内スタッフはビジネス価値をもたらすアプリケーション開発と戦略的イニシアティブに集中できます。

オンサイトや AWS など、最も合理的な場所でアプリケーションを開発、デプロイ、管理できます。Red Hat OpenShift はオンサイトのデータセンターやエッジ、パブリック、プライベート、ハイブリッドのクラウド環境で一貫して動作するため、プロジェクトやアプリケーションごとに適切な場所を選択し、ニーズの変化に応じて移動させることができます。フットプリント全体でのこの一貫性により、オンサイトのアプリケーションを AWS に移行する作業も単純化されます。さらに、Kubernetes の豊富な経験、移行計画の支援、管理されたクラスタのインストールと検証、効率化されたサポートを利用することにより、デプロイメントをさらに迅速化できます。

2 開発の最適化

組織の半数以上は、クラウドサービスの導入によって開発者の生産性が向上することを期待しています。² OpenShift Service on AWS を使用すると、開発者はクラウドネイティブ開発機能にすぐにアクセスできるため、迅速にコーディングできるようになります。

統合された認定済みの開発者用ツールおよびサービスの大規模なライブラリを活用して、優れたユーザーエクスペリエンスを提供し、より迅速に稼働を開始できます。開発者は、Red Hat OpenShift と AWS 全体で、任意の開発環境、プログラミング言語、ランタイム、ビルドツール、データストリーミング、イベント駆動型サービス、可観測性機能、アプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) 管理ツールを使用できます。セルフサービス機能により、運用担当者による手動介入を必要とせず、必要なリソースをより短時間でプロビジョニングできます。また、リソース提供が自動化されているため、開発者は遅延なく、少ない手間で作業を開始できます。

そして、サポート対象テクノロジーとワークフローを幅広く取り揃えた組み込みの継続的インテグレーション/継続的デプロイメントパイプラインにより、アプリケーションのライフサイクル全体の効率と一貫性を向上させることができます。

¹ Red Hat e ブック、「[レガシー・アプリケーションのモダナイズへの取り組み方](#)」、2023年1月。

² Pulse (Red Hat 後援)、「[クラウドサービスによってハイブリッドクラウドの複雑さを解消](#)」、2021年12月。

3 クラウドコストの最適化

クラウド支出の管理は、引き続き 82% の組織にとって最大の課題となっています。³ OpenShift Service on AWS によって、組織の柔軟性とコストの適切なバランスを実現することができます。

AWS では請求および購入管理が統合されており、調達が単純化されます。従量課金モデルでは、必要なインスタンスのみを使用して、その分だけ料金を支払います。また、1 年間および 3 年間のリザーブドインスタンス購入モデルでは、より長期間にわたって割引価格で利用できます。OpenShift Service on AWS での支出は全額が AWS Enterprise Discount Program (EDP) の対象になります。

「[Red Hat OpenShift Service on AWS] によって新しい製品とソリューションを市場に投入するペースが加速するので、より幅広い競争上の優位性を得ることができます」⁵

Kevin Kemmerer 氏
Brightly Software CEO

[お客様導入事例](#)を読む

4 AWS クラウドサービスの統合

組織は今後 2 年以内に、いくつかの主要なアプリケーション・コンポーネントをクラウドサービスに置き換える計画を立てています。¹ OpenShift Service on AWS によって、確実に連携する製品とクラウドサービスの完全な統合ポートフォリオへのアクセスが可能になります。

[AWS Cloud Databases](#)、[AWS Machine Learning](#)、[AWS Management and Governance](#)、[AWS Security, Identity, and Compliance](#)、[AWS Cloud Storage](#) などの AWS サービス統合を使用して、アプリケーションのモダナイゼーションのユースケースに理想的なソフトウェア基盤を構築します。さらに、OpenShift Service on AWS では、組織が現在使用しているツールとサービスを引き続き使用できます。

5 運用の単純化

経営幹部の 80% は、IT 自動化の導入が組織の将来の成功にとって「極めて重要」または「とても重要」と述べています。⁴ OpenShift Service on AWS は、Kubernetes Operator と Helm の両方をサポートし、アプリケーションのライフサイクル管理を単純化します。

ベンダーの詳細な専門知識を網羅した[認定オペレーター](#)と Helm チャートにより、優先パートナーのアプリケーションをより簡単に、自信を持ってデプロイおよび管理できます。さらに AWS では、Red Hat OpenShift から[AWS サービスを管理するための Operator](#) も数多く提供されています。

Red Hat OpenShift Service on AWS の詳細

OpenShift Service on AWS の詳細とメリットについて[詳しくご覧ください](#)。

アプリケーションのモダナイゼーションを始める

OpenShift Service on AWS によるアプリケーションのモダナイズについては、[こちらの e ブックをご覧ください](#)。

3 Flexera、[「Flexera 2023 State of the Cloud Report」](#)、2023 年 3 月。

4 Harvard Business Review Pulse Report (Red Hat 後援)、「[IT 自動化を先導する](#)」、2022 年 1 月。

5 Red Hat 事例、「[Brightly、新しいテクノロジーと新しい作業方法でイノベーションを加速](#)」、2023 年 1 月。



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋
+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア
1 800 733 428

インド
+91 22 3987 8888

インドネシア
001 803 440 224

日本
03 4590 7472

韓国
080 708 0880

マレーシア
1 800 812 678

ニュージーランド
0800 450 503

シンガポール
800 448 1430

中国
800 810 2100

香港
800 901 222

台湾
0800 666 052

f fb.com/RedHatJapan
t twitter.com/RedHatJapan
in linkedin.com/company/red-hat